

## キリンビバレッジの自動販売機横に業界統一仕様の 異物混入を削減する新機能リサイクルボックスを10月より導入開始 ～2022年末までに1,000台設置し、「ボトル to ボトル」水平リサイクル推進～

キリンビバレッジ株式会社（社長 吉村透留）は、一般社団法人全国清涼飲料連合会（会長 松尾嘉朗、以下全清飲）と一般社団法人日本自動販売協会（代表理事 森吉平、以下 JAMA）が業界統一仕様として展開する、環境に配慮した新機能リサイクルボックスを、異物混入の多い屋外ロケーションを中心に10月より導入開始します。

### 1. 新機能リサイクルボックス導入開始の背景

自動販売機で販売した清涼飲料の空き容器を回収する目的で自動販売機横にはリサイクルボックスを設置していますが、実際には、空き容器以外の異物の混入が約3割※を占めており、本来回収すべき空き容器が入らず散乱の原因になることや、空き容器回収業務や処理費用の負担増だけでなく、容器リサイクルの大きな障壁となっています。



また清涼飲料業界では、「2030年ペットボトル100%有効利用」「2030年ボトル to ボトル比率50%以上」を目指すことを宣言しています。この目標の達成に向けて、使用済みペットボトルを確実に回収することとその品質向上が課題となっています。

清涼飲料業界は、これらの課題の解決に向けて、異物混入を削減するリサイクルボックスの形状などの開発を行い、2020年に東京都渋谷区、2021年に静岡県浜松市、愛知県岡崎市、三重県津市、広島県広島市にて実証実験を実施しました。この結果、異物混入の割合として約3割から5割の削減効果が確認できました。これらの実証実験による削減効果を受け、2021年の実証実験モデルに改良を加えて開発したものが、業界統一仕様の新機能リサイクルボックスとして決定されました。当社は、全清飲、JAMAの方針に賛同し、10月より導入開始します。

※ 全清飲2018年12月調査より

### 2. 新機能リサイクルボックスの仕様

- ① 空き容器投入口を下向きに設計。投入口が見えにくい角度・高さで設計し、回収すべきペットボトル以外の異物の入りにくい口径で異物投入抑止を実現。
- ② ゴミ箱に見えにくいオレンジカラーを採用。
- ③ 投入口のわきのスペースで異物抑止を啓発するステッカーを掲出。



### 3. 当社の新機能リサイクルボックスの展開方針について

当社は、まずは2022年10月から12月にかけて国内各エリアで自動販売機による清涼飲料の販売を行っている子会社が管理する自動販売機横のリサイクルボックスのうち、特に異物混入が多い既存の屋外ロケーションにおいて、新機能リサイクルボックス1,000台の設置を行い、使用済みペットボトルを確実に回収することとその品質向上を目指します。

キリングroupは、自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよろこびを広げ、こころ豊かな社会の実現に貢献します。

#### （お客様お問い合わせ先）

キリンホールディングス株式会社 キリンビバレッジお客様相談室（フリーダイヤル）0120-595955

企業情報 Web サイト <https://www.kirinholdings.com/> 商品・サービス情報 Web サイト <https://www.kirin.co.jp/>